

学校法人内丸学園  
盛岡幼稚園

園報

第 258 号  
(9月)  
2021

# センス・オブ・ワンダーの感性

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

コロナ禍感染拡大の中、一年延期の東京2020オリンピック、パラリンピックが閉幕しました。開催については多くの慎重論もあったものの無観客を徹底し、アスリートの4年に一度の祭典が東京大会として終了し次に継続・継承されました。

その活躍の多くは、ICT(情報通信技術)の活用により競技場に行かずに家庭に居ながらにして知ることになりました。実は、今「令和の日本型学校教育」の構想が掲げられ、ICTの活用を取り入れた新たな学びの姿を模索しております。

新たな学びは、幼児期は人格形成の基礎を育む重要な時期ですか

ら現行の幼稚園教育要領、次代に生きる必要な資質や能力を3つの柱、発達に応じた①知識・技能の基礎を育む、それをもとに②思考力・判断力そして表現力の基礎を培う、③学びに向かう力・人間性等の心情・意欲・態度を育てることとは欠かすことが出来ない基本としなければいけません。しかもこの柱は小学校、中学校に継続・継承する資質・能力となっており、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な10の姿としても明確化されております。

その上で理解してませんが、今年度早々に未来社会像ソサエティ5・0に向かい育むべき質の高い学びが必要として、幼児教

育スタートプラン・幼保小の架け橋プログラム作成の構想が示されました。その一端は我が国の全ての5歳児に一律に、ことばの力・情報を活用する力・生活、学習の基礎を保障することを教育課程として義務付けるとのことです。しかしここで、ICT(情報通信技術)時代に必要な情報を活用する力が、幼児期の育ちとして保育時間に取り込むことが重要なのかと疑問です。

私も幼児教育現場では、非認知能力の育ちが6歳頃までが最も伸びるエビデンスのもとに、大事な保育活動として重視し実施しております。古い著書ですがレイチェル・カーソンのセンス・オブ・ワンダーの感性、「自然に直接触れた時の神秘さや不思議さを目を見張る心、美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れた時の感激、思いやり、憐み、賛嘆や愛情などの感情がひとたび呼び覚まされ

ると、次はその対象を最もよく知りたいと思うようになる」という言葉に触発されて、全ての子どもが生まれながらに持っているこの感性を失わないように育てる豊富な直接体験に時間を要しております。

更に近年社会環境は、少子高齢化、核家族化、戸外での子どもの遊ぶ姿が消え人間関係の希薄化、多様な考え方の触れる機会の減少が進んでいます。今こそ身近に自然を体験する豊富な機会が必要で、情報を活用する力より自然直接体験活動が現代の子どもの発達にとって重要なことと考えます。



センス・オブ・ワンダー  
レイチェル・カーソン  
The Sense of Wonder  
Rachel Carson  
上原恵子 訳 川内倫子 監訳

「センスオブワンダー」

# 子どもたちの姿から……



## お楽しみ会を終えて

### 特別な夏の思い出☆

Aクラス担任 齋藤 由紀乃

七月十七日に『お楽しみ会』が行われました。クラスを3つのグループに分け、グループ名を話し合ったり、ポスター作りをして、グループでの活動や準備をしながらお楽しみ会に向けて気持ちを盛り上げていきました。グループ名の話し合いでは、みんなが納得できるまで話し合いをし、素敵なグループ名になりました。また、夕食に食べるカレーの具材を分担して買い物に行った時には、グループの責任感からか「カレールーが無い！」と必死に探す子もいました。

毎日「あと何回寝たら…」と楽しみにしていた当日。夜の幼稚園にドキドキ・ワクワクしながら登園してきた三十一人の子ども達。三十五度の猛暑で、外でカレーラ

イスを食べることはできませんでしたが、みんなで作ったカレーライスに大満足の様子でした。その後はお待ちかねのお楽しみ会の時間（先生達の企画で、毎年子ども達には内緒にしています♡）二・三人のグループで、子ども達でいろいろなミッションに挑戦するすぐろくを楽しみました。お楽しみ会最後は、みんなで花火を見たことも思い出です。

「グループのみんなで！」



とっても楽しみに活動に取り組んできました。仲間と一緒に全力で取り組む姿に心も体も大きくなっているなあと感じる日々です。また、子ども達の話し合いで、意見がぶつかることも…しかし、いろいろな決め方を考えたり、折り合いをつけている姿もありました。いろいろな場面で、子ども達の成長を間近で見ることができて嬉しく思います。

## 遊び・生活から

### 子ども達のイメージが広がって…

Bクラス担任 瀧山 茉保

園庭では鬼ごっこや雲梯など体を動かす遊び、お部屋では制作遊びなど、その時その場所でも、たくさん面白いことを見つけて楽しんで遊んでいます。

特に、Bクラスの子ども達は制作遊びが大好き。遊び時間には制作コーナーに集まり、「こんなのを作ったら、楽しそうだね。」とステキなアイデアがあふれています。進級した当初、アイデアはあるけれど、なかなか上手く形にできなくて、「一緒に作ろう。」

と担任を頼る姿が多く、私たちも子ども達のイメージを聞きながら一緒に作っていました。1学期後半から、ハサミの使い方がどんどん上手になり、少しずつ『自分で作ってみたい』気持ちが大きくなってきました。どうやったら、自分のイメージしたものを形に出来るのか自分で考えようとしている姿が増えています。私たちがすぐに手伝うのではなく、少しずつ提案をしながら見守っています。今では、「こんなものが作れたよ！」と笑顔で私たちに完成したものを見せてくれます。材料が足りなくなった時にも、子どもたちなりのアイデアでステキな作

「たくさん作ろう!!」



品が生まれていました。『自分で作れた』ことが、子ども達にとつて大きな自信につながっています。完成した達成感を伝えてくる表情に、成長を感じています。

また、作ったものを使いながら「これも必要だよね。」とさらにイメージが膨らみ、盛り上がって遊んでいます。片づけの時間にも関わらず「まだ遊びたい！」と言うほど、遊びを楽しんでいます。

今後子ども達のやってみたい気持ちを大切にしながら、たくさん見守り、支えていきたいと思っています。

### 絵本を通して・・・

Cクラス担任 坂本 千夏

Cクラスになってから半年が経ち、幼稚園にもすっかり慣れた子ども達。遊びも「一人でじっくり遊ぶ」ことから「友達と一緒に遊ぶ」ことが楽しい時期になってきています。「お外でかき氷屋さんしようね」などと友達を誘い合う姿から、友達の輪が広がっているのだなど日々成長を感じています。毎日汗をたくさんかいて、パワフルに遊ぶ子ども達ですが、絵本



「今日のお話は、...」

の読み聞かせの時間も幼稚園での楽しみの一つです。毎日「今日は何の絵本見るの？」とワクワクしながら先生に聞いています。最近ハストーリーのある少し長いお話も集中して見えています。『ぶたのたね』では、気を失ったぶたを見て「食べられちゃう！」と口には手を当ててハラハラしている姿から、夢中になって見ていることが伝わってきます。他にも『おなかがいいたいこねずみ』を見ると後日、病院ごつこで「シャンシャンいちごの食べ過ぎでお腹が痛いんです」と絵本のストーリーと同じ遊びをしていました。子ども達にとってお気に入りの絵本になった

のだなど嬉しく思うとともに、絵本を通しての体験が実際の遊びに繋がっているのを感じた瞬間でもありました。

「なんで？」「どうして？」と様々なものに興味を示し、言葉もどんどん覚えていくこの時期。幼稚園でも想像力を膨らませてくれるような絵本との出会いを大切にしたいと思います。ご家庭でも是非、絵本と一緒に親子の時間を楽しんでみてください。

### 友達と一緒に

Cクラス担任 石田 雪乃

「あつ！トンポ！」と、窓の外を指差して教えてくれた子がいました。その声につられて、他の子ども続々と窓の近くに集まり、「ほんとだ！」「つかまえたことあるよ」と思い思いに言葉にしてみました。その日園庭に出ると早速トンポ探しへ…。夢中で探し、やっと自分で捕まえられる時はドキドキと嬉しさでいっぱいな表情でした。「とつて」と先生を頼っていた一学期からの成長を感じていると、「○○ちゃんに見せる！」「そーつとやるといいよ」と、友達に教える優しい姿もあり、嬉し



「つかまえたよー！」

くなりました。最初は怖がっていた子も、友達が触っているのを見て、少しずつ虫との距離が縮まり、「ちよつと触れたよー」と自信たっぷりで伝えてくれました。大好きな友達の存在が、挑戦してみようとするきっかけにもなっていると感じます。

また、ある日は折り紙でハートやリボンを作るのが得意な子が、友達に折り方を教えていました。二人で一緒に作り、同じものを身につけて喜んで遊ぶ姿に、思わずほっこりした場面でした。

日々、子ども達は様々な面白さや楽しさを発見します。自分の気づきを大切にしながら、周りの友

達に教えてあげる優しい気持ちや、友達と一緒に初めてのことも挑戦してみようとする気持ち、これからも育っていくといいな...と思います。

まだまだうまく言葉で伝えられず、遊具や場所の取り合いになることもある時期です。自分なりの言葉で伝えられた経験が自信につながるように日々関わっていきたいと思います。

「これ何だ？」

つぼみクラス担任 中村 美和子

盛岡市内の中心部にある当園ですが、すぐ近くに岩手公園、内丸緑地など緑豊かな場所に囲まれており、お天気の良い日にはお散歩カーに乗って、お散歩に出かけることが四月からの日課になっています。

公園に着くとすぐに、誰かが「これ何だ？」としゃがみ込みます。するとすぐに四人から五人の輪ができて、「なんだ？」「なに、これ？」中には「これ、なんなん？」と関西弁のようにお話する子もいます。覗いてみると、蟻だったり、綿毛になったタンポポだったり、大人が見ると当たり前のものが一



「これなんだ？」「あり！」

歳児にとつては、初めて見る不思議で魅力的な何だか分らないものなのです。内丸緑地に落ちている栃の実も、子どもにとつては大切なお宝に見えるようです。少しのことで立ち止まり、寄り道する子どもたちですが、お外の世界を歩いたり、見たりすることが、楽しくてワクワクする遊びなのです。まさに、「これ何だ？」です。見るもの全部初めてで、なんでも不思議です。これからも、いろんな素敵なもの、不思議なものを沢山見つけて、ワクワクして欲しいと願っています。

自然とのふれあい

園庭で遊んでいると「先生見てー！」と、お花やダンゴムシ、不思議な形の石など、両手いっぱい宝物を持ってくる子ども達。季節の草花や生き物を通して、遊びを膨らませたり興味を持つたりする姿に、身近に「自然」があることを感じていきます。

春に教会会員の方からアゲハチョウの幼虫を頂き、子ども達と一緒にお世話をしてみました。登園すると毎日観察をする子、アゲハチョウについて調べて教えてくれる子：Aクラスの子も達は、段ボールと絵の具を使って飼育ケースの看板を制作するなど、それぞれの関わり方で蝶になるまでを見守っていました。7月になり、蛹から蝶が生まれてきた時は「きれいだね！」「はらべこあおむしみたい！」と、みんなで感動を分かち合いました。また来年、と思っていた矢先、今度はクロアゲハの卵が幼稚園にやってきました！毎朝、葉っぱの上の卵に目を凝らす子ども達。次はどんな蝶が生まれるかな？今から楽しみです。

(文：村松 千尋)

編集後記

今年の夏は、熱中症警戒アラートが連日出るほど暑い夏でしたが、耳を澄ませると虫の音が聞こえてくるようになりました。東京オリンピック2020“そして、パラリンピック”が開催され、熱い応援とたくさんさんの感動を味わった夏になりました。おうち時間も重なり、オリンピックを観戦した子ども達はたくさん国旗やスポーツを知る機会になりました。ホールでは早速、年長児が手作りの段ボールラケットで卓球を楽しんでいます。子ども達の柔軟に振る舞って遊ぶ姿はコロナの制限がかかる毎日でも頼もしく感じます。これからも感染対策をしながら元気に過ごしていきたいと思っています。

学校法人 内丸学園  
幼保連携型認定こども園  
盛岡幼稚園  
〒020-0001  
盛岡市中央通一―六―四七  
TEL 六二二―二三〇一  
理事長 坂本 洋